

受講番号 18072 学校名 行川中学校 氏名 中澤 志津

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 英語 生徒数 5 名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 New Horizon English Course 3

クラスの様子・特徴

総じて真面目でおとなしく、クラスとしてのまとまりに欠ける面がある。特に男女間ではほとんど会話がなない。決められたことは何とかできるが、家庭学習や授業態度も積極的とは言えない。

問題の確定

文法にこだわり過ぎるせいか、会話がスムーズに続かない。疑問文(5W1H)に対する受け答えもスムーズにできるようにしたい。

予備調査

A 授業の観察

4領域の中では話すことに対する苦手意識が強い。授業の流れは毎回同じなのでスムーズにできる。1年生で過去形について学習してからずっと日記を書いている。時系列の簡単な内容に加え新しく習った文法も取り入れながら書くので書くことには抵抗がない。

B 生徒による授業評価

アンケート結果から、英語が嫌いという生徒はいない。定期テストの結果で判断すると、苦手意識があるかと思ったが関心は低くなく、自分たちの目標もあることがわかった。異文化以前に日本の文化に関心がないため、補足説明に教師がしゃべりすぎる。

C 学力データ

今年、6月に5人とも英語検定4級を受検し、合格している。結果を見ると個人差はあるが極端に弱いと思われる領域はない。CRTの分析結果は4領域とも全国通過率とほぼ同じか上回っており、極端に苦手と思われるものはない。

リサーチ・クエスト

会話をスムーズに続け、全員がワンランクうへの会話力を身につけるには、どのような指導が必要か。

仮説・実践・検証

仮説1

より多くの会話の時間や、Listeningを取り入れることで会話に対する抵抗がなくなるだろう。

実践1

・毎回、授業の導入部分を長くし、既習のものに新しく習った文法も取り入れ、会話練習をする。また、ALTとの授業の中では会話練習の時間を今までより長くしたり、ディクテーションをしたりしてポイントをおさえながら聞く練習をした。

検証1

毎時間授業の始めに会話をする時間を少し長く取りながらまずはパターンの受け答えができるようにしていった。また他の生徒の発言に対して英語で質問することを義務づけることで集中して聞くようになり、答えだけでなく質問の文も作れるようになってきた。

仮説2

Thirty-Seconds Speechとして毎回一人ずつ与えられたテーマについてスピーチをする。それによって大きな声で話したり、人前で発表することに対する抵抗がなくなるのではないかと。

実践2

毎時間、一人ずつ30秒間スピーチをした。当然準備が必要になるので辞書を使ったり、文法を考えながら英作していく力も少しずつではあるがついてきたのではないかと。スピーチを聞き取り、それに対して質問することを義務づけたことで会話力につながっている。30秒話すために準備として5~7文(1文が7単語以上)英文を作って、できるだけ顔をあげて発表した。

検証2

授業の進度との関わりもあり毎時間スピーチを行うことは無理だったが、4つのテーマについて各自発表した。話しやすいテーマの時には準備が早くでき、スピーチもスムーズだったがテーマが難しいときにはなかなか準備ができず、発表の中身もおざなりになってしまった。女子2名はスピーチの準備からまじめにやり、顔をあげて発表することができた。男子は準備が遅れたり、文法的に簡単な内容になってしまうことがあった。

仮説3

インタビューゲームや、ロールプレイを取り入れることで楽しく会話することができるのではないかと。

実践3

ALTの協力を得て、楽しい雰囲気の中で会話することに取り組みは充実感が得られ、苦手意識のある生徒の気持ちも前向きになるのではないかと考え、インタビューをしたりロールプレイをして積極的に話すことに取り組めるようにした。

検証3

ロールプレイについてはALTとの授業で2度しか実施できなかった(コンサートへ行こう・道案内)が、状況にあったセリフを考え楽しんでやることができた。インタビューについてはあまり深まらないので導入としては良いが会話力をつけるための手立てにはならなかった。

研究の成果

書くことについてはあまり抵抗がなく、テストなどの条件作文に意欲的に取り組む面がみられた。毎日日記を書くことで少しずつ書くことについての自信ができたのだと思う。それが話すことへの自信に繋がったことはひとつの成果だったと思う。また、少人数とはいえ、みんなの前で話す(読む)ことは大変緊張したようだが、何度か取り組んでいくうちに抵抗も少なくなり、間違いがあっても顔をあげて発表することができるようになってきた。ALTとの授業で会話練習やテストをすることで受け答えがスムーズになってきた。

今後の授業改善の課題

30秒スピーチでは相手の目を見て話したり、自分の言葉で語るなどの「話す活動」にはまだ至っていない。最終的にノートに書いた英文を読むのではなく、自分の考えを話せるようにしたい。また、会話練習では日頃よく使われる表現についての応答はできるが、聞き慣れない質問については意味を理解することに時間がかかる。スムーズに会話をする為に、リスニングの練習をより多く取り入れるなどして聞く力を伸ばしていく必要がある。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-844-3095

電子メール